

開催報告

秋学期FDワークショップ

「Canvas LMS入門ーハンズオンセミナー」

[2023年1月18日・1月20日]

2023年度から Canvas LMS が立教大学公式の授業支援システムとして導入されることになりました (Blackboard の運用は 2023 年度末終了となります)。これを受け、



ワークショップ(池袋キャンパス)

Canvas LMS の周知と活用促進を目的として、大学教育開発・支援センターおよび情報企画室(メディアセンター)主催のワークショップを池袋・新座の両キャンパスで開催しました。

ワークショップの前半では、情報企画室の小川龍秀氏から本学の情報基盤と授業運営で使用するシステムの全体像、Canvas LMS の導入スケジュール、操作マニュアルなどが紹介されました。特に、2023 年度春学期から全ての授業科目で Canvas LMS が利用可能となるが、2023 年度は Blackboard、立教時間との並行運用期間となり、科目担当者が授業で使

用するシステムを選択することができること、このため学生が迷わないように、授業で使用するシステムを学生へ必ず周知すること、そして、可能な限り 2023 年度から Canvas



中村優太郎氏

LMS へ移行することが望ましいこと、などの点がアナウンスされました。

つづく後半では情報企画室の中村優太郎氏による機能紹介とともに、デモンストレーション画面を見ながら参加者の方々に操作体験を行っていただきました。Canvas LMS の画面の見方に加え、特に授業での利用頻度が高い機能(お知らせ発信、課題の設定と採点、教材のアップロード、課題やファイルの整理)が取り上げられました。

当日は昼休みの短い時間にもかかわらず、計 40 名が参加し、ワークショップの後は授業利用を想定した機能の使い方に関する質問や相談が寄せられ、4月からの本格運用を前に Canvas LMS に対する理解を深めていただくことができました。当日の動画を公開いたしますので、ぜひご覧ください(URL は下記)。



ワークショップ(新座キャンパス)

7. Canvas LMS 機能概要

2-1	アナウンスメント	+	2-9	成績	+
2-2	モジュール	+	2-10	ループリクエスト(注釈)	+
2-3	教材(ファイル・外部URL・ページ)	+	2-11	ファイル	+
2-4	課題	+	2-12	メンバー	+
2-5	テスト(採点済みのクイズ)	+	2-13	グループセット	+
2-6	アンケート(採点済み・未採点のサーベイ)	+	2-14	セッション	+
2-7	ディスカッション	+	2-15	受講生ビュー	+
2-8	受講トレイ	+	2-16	出席管理	+

▲ 説明スライドから「Canvas LMS 機能概要」

次ページ「立教大学における授業支援システム(LMS)
ーCanvas LMS導入にあたってー」座談会

お知らせ 当センターとメディアセンターから〈本学教職員向け〉

- 動画『オンデマンド授業の基本と作り方』
- 動画『FDワークショップ Canvas LMS 入門』
上記FDコンテンツおよび、ワークショップの動画を公開しました。
ページはこちら〈本学教職員限定〉⇒ https://spirit.rikkyo.ac.jp/cdshe/online_class_information/SitePages/training_session.aspx#anc08
- 2023年度春学期より新・授業支援システムCanvas LMSの運用を開始します。
2023年度末にBlackboardは運用を終了します。授業運営はCanvas LMSをご利用ください。
Canvas LMSの操作マニュアルや動画を以下に掲載しています。また、機能や操作についてのご質問はメディアセンターヘルプデスクまでお問合せください。
⇒Canvas LMSについて:<http://s.rikkyo.ac.jp/canvas> メディアセンターヘルプデスク:<http://s.rikkyo.ac.jp/helpdesk>



立教大学における授業支援システム(LMS) —Canvas LMS導入にあたって—

立教大学では2023年度より新たな授業支援システムとして「Canvas LMS」が本格的に導入されます。そこで今号では、LMS検討ワーキンググループ座長であった大石幸二教授、2022年度秋学期に先行利用している石渡貴之教授、運用部署である情報企画室の小川龍秀課長による座談会を企画しました。「Canvas LMS」について、導入の背景とねらい、活用の仕方と留意点、学生の反応、活用に向けた期待などについてお話しいただきました。

司会

佐々木直樹 准教授（理学部、大学教育開発・支援センター副センター長、Teaching & Learning部会長）

メンバー

大石 幸二 教授（現代心理学部、キャンパス連携・教学担当副総長、LMS検討ワーキンググループ座長）

石渡 貴之 教授（コミュニティ福祉学部 ※2023年4月よりスポーツウエルネス学部、2022年度秋学期Canvas LMS先行利用教員）

小川 龍秀 情報企画室課長

Canvas LMS導入の背景とねらい

佐々木 いよいよ2023年度からCanvas LMSが本格的に導入されることとなります。これまで本学のLMS^{※1}としては初期のCHORUS、その次のBlackboardがあるかと思えます。まず、これらのシステムから新たにCanvas LMSへ移行する経緯について教えてください。

小川 現在のLMSであるBlackboardは2012年度から運用しています。それ以前は国内製品のLMSを運用していました。Blackboardへ移行した背景としては、当時の国際化、グローバル対応という観点もあり海外製品であるBlackboardが採用されることになりました。そしてこの度、Blackboardの現行サービスが2023年度中に終了することをきっかけとして、教育改革推進会議においてLMS検討ワーキンググループやLMS選定評価委員会が設置され、次期LMSの検討が行われた結果、Canvas LMSが導入されることになりました。

佐々木 大学によって使用されているLMSは様々です。本学では、どのような背景とねらいのもとにCanvas LMSが選定されたのでしょうか。

大石 選定理由は、大きく内発的なものと外発的なものとに分けられます。内発的な理由の一つ目に、立教大学の中で議論されている「情報戦略2.0」があるかと思えます。そのなかでは、今後の立教大学における情報の活用や分析、それを支える仕組み、教育以外のさまざまな活動への応用などをどのように進めていくかという大きな枠組みでの議論が進められています。そして、立教大学におけるLMSを今後どのような形で位置づけてこれらの議論と連動させていけるかということが重要であると考えています。

二つ目に、立教学院としての一貫連携教育が挙げられます。Canvas LMSについては、17、18歳の段階での活用事例が英語圏で存在しており、

大学に入る前の段階から、どのように情報処理やコンピューターの利活用が進んでくるのか、2025年度以降の入試の改革なども考慮に入れて、どのように学院全体として考えていくかということも、大きな文脈だと思っています。

そして三つ目に、授業の質的向上を図りたいという根本的なねらいがあります。DXに関していうと、できればリアルタイムに近い形で学生の学習状況の分析を行っていきながら、そのデータやエビデンスに基づいて授業改善につなげていくようなフィードバックのシステムが望ましいと思います。LMSをうまく活用することで、これを実現できないだろうかと考えてきました。これは学修成果の可視化にもつながっていきます。これらを検討するなかで、様々なLMSのなかでも、Canvas LMSがそれらの可能性を内包する、拡張性のあるLMSなのではないかということも議論しました。

一方、外発的な理由として、一つ目に国際的通用性の問題があります。現在のBlackboardを導入したときには、そのシェアは諸外国でもかなり高かったのですが、その後全体的に低調になってきました。二つ目に、Blackboardのサポートが2023年度中に終了してしまうことも非常に大きな理由になっていました。三つ目に、第三期認証評価にみられるように学修成果の可視化を具体的に示す段階に入ってきたことが挙げられます。これを進める上で有利なLMSに移行できないかという観点から検討を行いCanvas LMSの選定に至りました。

佐々木 Canvas LMS運用開始のスケジュールを教えてください。

小川 2022年度は先行運用期間と位置づけています。石渡先生は、まさに先行運用科目として利用されていますが、全学的には一部の科目に留まっています。



大石 幸二 教授

	2022年度	2023年度	2024年度
Canvas LMS		先行運用	並行運用 → 全面運用
Blackboard			✕ 提供終了
立教時間 (授業利用)			Canvas LMSへ 運用を移行

2023年度は、BlackboardとCanvas LMSの並行運用期間となっています。そして2024年度はBlackboardの利用はできなくなりますので、Canvas LMSに完全移行することになります。また、立教時間はeポートフォリオシステムとしての役割を明確にして、授業利用はCanvas LMSに一本化していく方針です。

実際にCanvas LMSを使ってみて

佐々木 実際にCanvas LMSを使ってみて、どのように感じていらっしゃいますか。特に、石渡先生は先行運用期間で既に触れられているかと思いますが、いかがでしょうか。

石渡 授業前にレジュメをアップロードし、授業後に授業で用いたパワーポイントのスライドを掲載しています。オンライン授業のときは、LMSを用いて毎週小テストを行いました。ただ、オンライン授業の中で



石渡 貴之 教授

小テストを実施すると、学生が他の媒体で調べているのかよく分からないことが課題でした。

特にCanvas LMSを先行利用してみて感じたことは、レポート提出の際、期限日を設定し、期限を過ぎると視覚的に大変分かりやすく教えてくれること、また、一斉メールなどのお知らせ機能が非常に便利なことでした。

大石 まさに石渡先生がされているような、授業前の段階で学生に事前学習を促すように工夫し、授業後は学習した内容を振り返って定着させていくという一連の活動を、LMSを通して構築していくことが重要であると思います。

佐々木 今回、BlackboardからCanvas LMSへ移行しますが、主だった両システムの共通点・相違点についてお聞かせください。

小川 オンライン授業マニュアルサイトではCanvas LMSとBlackboardの機能対応表、機能概要をまとめています(資料1)。ここでは、例えば表示終了日はBlackboardにはあるがCanvas LMSにはないということが示されています。また、Canvas LMSに移行する際にどのような移行制限があるのか、その際のポイントはどこにあるのかということも示していますので、ぜひ参考としてご活用いただきたいと思います。

佐々木 Canvas LMSの活用にあたっての留意点についてはいかがでしょうか。

大石 それぞれの大学で使用されているLMSが、Moodle、manaba、Google Classroomなどと異なっているので、特に兼任講師の方は、戸惑われるのではないかと思います。

2023年度から新規に兼任講師となられる先生方が、継続任用される場合、2024年度からはCanvas LMSが全面運用されるという移行が生じます。その移行に関してはサポートをより手厚くしていくような体制の整備が必要ではないかと考えています。

また、授業設計とLMS活用の関係について留意すべきことは、授業支援システムとしてのCanvas LMSとともに、eポートフォリオシステムとしての「立教時間」の仕組みもあわせて理解しておく必要がある点です。たとえば、ルーブリックの活用について、立教大学として全面的に活用していくと目指している時期と、Canvas LMSが全面運用されるまでの移行時期が連動していることや、Canvas LMSにおいてルーブリックの機能は、「立教時間」よりも制限される内容もあると聞いています。ルーブリックなどのツールを授業で上手く活用していくためには、LMSとeポートフォリオシステムの仕組みをあわせて理解しておく必要があるでしょう。

学生の反応

佐々木 Canvas LMSの選定にあたっては、学生モニターによる評価もあったと伺っています。また、先行利用でも学生が実際にCanvas LMSに触れているかと思いますが、学生の反応はいかがでしょう。

小川 従来のBlackboardとの比較でいえば、Canvas LMSはUI(ユーザーインターフェース)^{注2)}が今どきのもので、非常に好印象だったようです。初めて操作しても分かりやすいという意見があり



小川 龍秀 情報企画室課長

資料1 Canvas LMSとBlackboardの機能対応表・機能概要 (※立教大学オンライン授業マニュアルサイト Canvas LMS: 教員用マニュアルより)

Blackboard	Canvas LMS
お知らせ	アナウンスメント
コンテンツフォルダー	モジュール
教材	<ul style="list-style-type: none"> モジュール内の「ファイル」 モジュール内の「外部URL」 ページ
課題	課題
テスト	クイズ(採点済みのクイズ)
アンケート	クイズ(採点済み・未採点のサーベイ)
掲示板	ディスカッション

Blackboard	Canvas LMS
メール送信	受信トレイ
成績管理	成績
ルーブリック	ルーブリック(注釈)
コンテンツ管理	ファイル
ユーザー	メンバー
グループ	<ul style="list-style-type: none"> グループセット セクション
学生表示	受講生ビュー
出席管理	なし ※2023年4月より利用可能とする予定。

ました。もう一つの観点としては、しょうがい学生支援室とも連携し、しょうがい学生の方々にもモニターとして参加していただいて検証をしました。

佐々木 私も先行利用していますが、学生から不満や使いにくいといった声は聞こえてきていません。ただし、まだ、授業の前に講義資料をアップロードして提供する、授業後に授業中に取り組んだ演習問題の解答例をアップするなどの単純な使い方しかできていないというところもあるかもしれません。

石渡 特に学生から使いづらいという意見は出ていません。私自身すごくいいなと思っているのは、Canvas LMS では、設定した課題の締め切りを過ぎたときに、遅れて提出した学生が何名いたという報告が教員に対してあることです。また、Canvas LMS を使って学生からメールが私に届くようになりました。学生目線から見ると、Blackboard よりシンプルで見やすくなって、よく使う機能を凝縮しているような LMS になっていると思います。

Canvas LMSの活用に向けた期待

佐々木 最後にCanvas LMSの活用に向けた期待についてお伺いします。

大石 大きく分けて二つあります。一つは、実際の活用事例をグッドプラクティスとして蓄積していくことで、利便性や使い勝手をよくするための取り組みが進みますし、より効果的な運用にもつながると思います。

もう一つは、何のためのLMSかと考えたら、学習者の主体的な学習の質を高めて、能動的に学んで新しい知をつくり出すというのが、理念的にはとても重要なところだと思います。Canvas LMS を運用することで、授業を深めたり高めたりすることに結び付けていただければ期待しております。

石渡 Blackboard よりも Canvas LMS の方が圧倒的に使いやすいと思います。やや複雑だった Blackboard の機能をもう少しシンプルにしたのが Canvas LMS で、教員にとっても見やすくなったし、受講生ビューから見てもすごく扱いやすくなったと思います。Canvas LMS に慣れるま

では多少時間はかかるかと思いますが、メディアセンターには Canvas LMS へ移行するように促していただいて、教員が積極的に使うことを期待したいです。

小川 先生方が積極的に活用していくために、まずはマニュアルなどのコンテンツを整備し、兼任講師の先生方へのサポートも充実させていきたいと考えています。たとえば、問い合わせフォームやメールでのやりとりだけでなく、実際にメディアセンターまでお越しただいて、画面を見ながら一緒に操作をするという支援も行っていますが、さらに、今後、定期的にFD講習会などを実施し、周知および支援を行っていきたく考えています。

Canvas LMS は、インターネット上に様々な機能を紹介する動画がアップされているなど、世界中で使い方を共有するコミュニティのようなものが存在します。立教大学の先生方の間でも「Canvas LMS をこんなふうに使えるよ」などという声を共有できるコミュニティが色々なところでできあがっていくと、とてもよいと思っています。そういった環境づくりに向けて、われわれもサポートしていきたいと考えています。

佐々木：大学教育開発・支援センター TL 部会としても、Canvas LMS のグッドプラクティスの収集や共有に取り組み、授業運営をしていくにあたってのヒントを提供していければと考えています。そし



佐々木直樹 准教授

て、Canvas LMS の活用によって、学生の主体的な学びを促すといった、まさに立教大学の教育理念と強く結びついているところを支援していきたいと思います。本日はありがとうございました。

注1) LMS (Learning Management System) 学習管理システム。立教大学では授業支援システムと呼称。

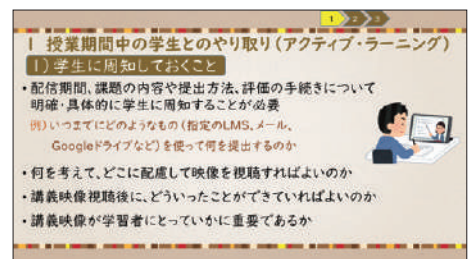
注2) UI (ユーザーインターフェース; User Interface) ここでは、スマートフォンやパソコンで表示されるアプリのボタンの色や余白、フォントなどの画面表示などアプリ画面そのもののデザインを指す。

座談会まとめ 助教 神田 恵美子

FD動画コンテンツ「オンデマンド授業の基本と作り方」のご案内

当センターでは、各学部等で開講される「オンデマンド科目」を担当する教員向けに、FD動画コンテンツ「オンデマンド授業の基本と作り方」を制作しました。「オンデマンド科目」を担当するにあたっての基本事項や留意すべき点が以下のような構成で、コンパクトにまとめられています。ぜひ活用ください(表紙のお知らせ欄にURLを記載しています)。

- I 授業設計に基づくオンデマンド授業 (約10分)
- II オンデマンド授業の流れ/手順/配慮 (約9分)
- III オンデマンド授業の留意点・成績評価 (約11分)



▲「オンデマンド授業の基本と作り方」動画から

